第３学年美術科学習指導案

対　象　平内町立平内中学校　３年２組　３３名
指導者　平内町立平内中学校　佐藤　あゆ子

１　題材名　「令和のムナカタ～線でとらえる平内の形・時間や空気でとらえる平内の色」（７／８）
A 表現（１）ア（ア）　（２）ア（ア）　B 鑑賞（１）ア（ア）

２　題材について

（１）学習指導要領との関連

本題材は、学習指導要領の次の目標・内容に基づいて設定したものである。

第２学年及び第３学年の目標と内容

目標

（１）　対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに,意図に応じて自分の表現方法を追求し,創造的に表すことができるようにする。

（２）　自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ,表現の意図と創造的な工夫, 機能性と洗練された美しさとの調和,美術の働きなどについて独創的・総合的に考え,主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり,美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

（３）　主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい,美術を愛好する心情を深め,心豊かな生活を創造していく態度を養う。

A 表現

（１）　表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア　感じ取ったことや考えたことなどを基に,絵や彫刻などに表現する活動を通して,発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）　対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと,夢,想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し,単純化や省略,強調,材料の組合せなどを考え,創造的な構成を工夫し,心豊かに表現する構想を練ること。

（２）　表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア　発想や構想をしたことなどを基に,表現する活動を通して,技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）材料や用具の特性を生かし,意図に応じて自分の表現方法を追及して,創造的に表すこと。

B 鑑賞

（１）　鑑賞の活動を通して,次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア　美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して,鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

（ア）　造形的なよさや美しさを感じ取り,作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして,美意識を高め,見方や感じ方を深めること。

【共通事項】

ア　形や色彩,材料,光などの性質や,それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に,全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

（２）指導にあたって

青森県の版画家として有名な棟方志功の裏彩色（版画の裏から水性絵具や顔料で着彩する技法）にヒントを得て、黒の線と裏彩色で着彩した色をレイヤー構造として捉える。主軸となる黒の線画に色彩のレイヤーを重ねることで表現が深まることを理解し、主軸となる黒の線画に時間や空気感を色彩のレイヤーとして加えることによって自分の思い入れのある風景画を制作することができるように指導する。

本学年は１年次に「HIRANAI　COLORS」と題して地域の色について考え、オリジナルの色名を考える授業を実施している。２年次は、総合的な学習の時間で、訪問体験した地域の企業のPR ポスターを版画で制作している。今回の授業でも、地域の風景を取り上げ、自分なりの主題をもって、制作することで、地域への思いを深めさらに経験から生み出された色彩を考えさせ、より思い入れのある風景画を制作することができるように指導する。

授業では、ibispaint を使い、４枚程度のレイヤーを重ねて１つの風景画を制作する。各レイヤーでは、時間や季節を設定したり、懐かしさやすがすがしさなどの空気感を考えさせたりすることで、色彩が感情にもたらす効果を理解できるように指導する。主軸の黒の線画だけでも絵としては成立するが、そこに色の層を重ねることにより、作者の感じたことや考えたことをより豊かに表現することにつながる。加えて、絵が多くの要素から成り立っていることを構造的に理解することができる。

指導過程の中にモネの作品や棟方志功の墨画を鑑賞して、光や影の色彩について学習する時間を設定することによって色彩で時間や季節を感じさせたり、情景や空気感を考えさせたりするなど考え方が深まると考えている。

ＧＩＧＡスクール構想が始まって８年、生徒は授業において抵抗なく授業の中でタブレットを使っている。今回の授業では、表したい色を試行錯誤しながら選択したり、簡単にやり直したりできること、レイヤーの重なりの順序を変えることで、作品の印象が変わることなどが理解できるようデジタルツールを活用する。タブレット端末を使うことによって「なぜその色彩なのか」「空気感を表現するためには何色を選択すればよいか」など自分のイメージをもつこと、色の効果や重なり、情景を深く考えることを通して教科の本質に迫る授業にしたいと考えている。

３　題材の目標

・対象や事象を捉え、感じ取ったことや考えたことを基に色彩の重なりが感情にもたらす効果を理解するとともにデジタルレイヤーの構造を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追及し見通しもって創造的に表す。（知識及び技能）

・地域の景観を深く見つめ感じ取ったことや考えたことを基に自分なりの主題を生みだし色彩の重なりやレイヤーの構造を理解しながら構想を練り表現の意図や工夫について考えるなどして見方や、感じ方を深める。（思考力、判断力、表現力）

・地域をテーマに自らの経験から、地域に対する心情を深め空気感や情景を表現することに関心をもち主体的に学習活動に取り組もうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

4　研究内容との関わり

①造形的な見方・考え方を引き出す「出会い」の工夫【発見】

棟方志功作品を鑑賞することで、「裏彩色」という表現技法に出会うことによって、デジタルレイヤーの構造を理解し、色の重なりで表現するという新しい考え方を身に付け主題にせまることができる。

②創る喜びを支える試行錯誤の過程の工夫【試行】

デジタルツールを使うことで、「試し」や「やり直し」また「比較」をしながら主題に迫ることができる。

③伝える喜びを広げる鑑賞の工夫【対話】

ロイロノートで全員の作品を公開し相互鑑賞をすることで、級友の作品の意図を理解する。

④感性を未来・社会へつなげる場の工夫【接続】

棟方志功の裏彩色をきっかけに、現代のデジタルツールを使うことで、郷土の芸術家について考えを深め郷土に対する愛着を深める。

5　指導計画と評価規準

（1）評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 色彩の重なりや配置が感情にもたらす効果を理解している。 技 色彩の重なりを工夫し、デジタルレイヤーで表現している。	発 地域の景観から主題を生み出し色彩の重なりやレイヤーの構造を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて見方や感じ方を深めている。	態表 地域の景観をテーマに自らの経験から、地域に対する心情を深め、色彩の効果や全体のイメージを捉えようとしたり、試行錯誤を重ねながら創意工夫し、主体的に活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい造形的な良さや美しさを感じ取り作者の心情や表現の意図や工夫を考え見方や感じ方を深めて学習活動に取り組もうとしている。

（2）指導計画（8時間）

時間	学習のねらい	学習活動	評価の観点		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 ・ 2	・棟方志功作品の鑑賞活動を通して、版画に対する思いや裏彩色による色彩の効果について見方や考え方を深めることができる。 ・裏彩色の実践を通して和紙を通した色彩の効果について考えるとともに、色彩が感情にもたらす効果を理解することができる。	・棟方志功について動画で生涯を理解し、作品を鑑賞する。棟方志功の表現方法について考える。 ・２年次に制作した版画に裏彩色を施し作品の変容や色彩がもたらす効果に気づく。	知ワークシート 知作品		態鑑 態表 行動観察 発言内容
3 ・ 4	・平内町を撮影した写真をもとに、自分なりの主題を基にイメージを膨らませながら線画に描きおこすことができる。	・平内町の風景を写真撮影し、それを墨で線画に描き起こす。	技作品	発 主題文章	態表 行動観察 発言内容
5	・風景画の鑑賞を通して、天候や季節時刻などによって変わる様々な光や陰影、空気感に着目させ、そこに自分の思いを乗せた表現について見方や感じ方を深めることができる。 ・地域に対する想いを深め考えたことを言葉で書き表しながら主題を生み出すことができる。	・モネの「積みわら」や「ルーアン大聖堂」を鑑賞し、時間や季節による色彩の変化について考える。 ・地域に対する想いや経験から主題を文章化する ＊７時間目の授業につなげる。		鑑 ワークシート 発主題設定の文章表記	態鑑 態表 行動観察 発言内容

6	・裏彩色とレイヤーの関係について考え方を深め、構造的な絵画表現について考えることができる。 ・３枚程度のレイヤーで色彩の重なりを確認し、効果を理解することができる。	・レイヤーについての理解を深め、裏彩色の原理と同じであることを理解する。	知 ワークシート 技 ミニ作品		態表 行動観察 発言内容
7 本時	・平内町の風景画にイメージした時間や季節、空気感、情景等を表現するのに適している色彩を選択しレイヤー表現として重ねることで、風景画を主題に沿って制作することができる。	・線画の下に色彩のレイヤーを重ねることで、空気感や情景を表現するためにはどうしたら良いか考えを深める。		発作品	態表 行動観察 発言内容
8	・完成した作品について相互鑑賞し、級友の作品の良さを味わうことができる。	・グループ発表し、お互いの作品の良さを味わう。		鑑 ワークシート	態鑑 行動観察

6　本時の学習

（1）ねらい

平内町の風景画にイメージした時間や季節、空気感、情景等を表現するのに適している色彩を選択しレイヤー表現として重ねることで、風景画を主題にそって制作することができる。

（2）研究の重点と本時との関連

②創る喜びを支える試行錯誤の過程の工夫【試行】

デジタルレイヤーを使うことで、色の選択やレイヤーの重なりなどを試行錯誤し、やり直しや比較をすることで、主題を的確に捉え、感じ取ったことや考えたことを基に、色彩で情景や空気感を表現することができるのではないか。

（3）展開（7／8）

	教師の働き	生徒の活動	留意点
導入	1　線画のみの作品を提示する。 「この絵の季節や天気、情景を伝えるためには何が必要ですか」 	「色ではないか」 「季節感を感じさせる色を入れる」	風景写真を線画にした画像データをibispaint の最上位レイヤーに設定する。
	2　色レイヤーを下に重ねたものを順番に提示し、対話しながら色の効果を考えさせる。 ・黄色レイヤーを重ねる ・水色や緑を重ねる ・オレンジを重ねる   	レイヤーが重なることで情景が変化していくことを理解する。 「夏っぽい」 「秋っぽい」 「暑い感じ」 「さわやかさがでた」 「少しなつかしい感じになった」	レイヤー1枚に1色という制限は特に設けない。 学習環境として、これまで学習した色彩の感情表現のワークシートや鑑賞の授業で使用した作品を掲示する。
展開	3　本時の課題 レイヤー構造を使って設定したテーマにあった平内町の時間や空気感などの情景を表現するには、どのようにしたら良いだろうか。		
	4　スケッチブックの前時の学習を確認 ・表現したい情景の文章を確認させる。 5　数名の生徒の作品を取り上げて、線画を提示させるとともにどんな情景の作品にするのかを発表させる。 6　レイヤーの確認 ・線画レイヤー・・透明度０％最上層 ・時間を表現する色レイヤー	制作する作品の情景を文章化しておく。 前時に配布されたワークシートを確認する。	スクリーン① 線画を写す スクリーン② 文章を写す ○前時にワークシートでレイヤーについては確認しておき、本時でスムーズに作業に入れるようにする。

	・季節や天気を表現する色レイヤー ・おまかせレイヤー（情景やエピソード）		
	7　作品の制作　２０分 「レイヤーの順番を変えてみよう。」 「色の透明度を調整してみよう。」 「色の配置を変えてみよう」 ・できた作品を ChatGPT で「この作品はどのように感じますか」と聞いてみても良い。 ・隣の席の生徒の制作に差し支えないように意見を求めても良い。互いに作品を見せ合ってもよい。	各レイヤーの色を選択し、線画レイヤーの下に重ねていく。イメージする風景画を制作する。 ・作品が完成したらロイロノートに提出する。	・早くできた生徒は２つ目、３つ目と作品を制作してみる。その都度作品は保存し後から比べることができるようにする。 評価１ （思考・判断・表現） 自分がイメージした情景や主題に近づけるために、色彩の重なりやレイヤーの順序、透明度などによる効果を考え表現を工夫している。 作品　行動観察 □C 評価生徒へ声掛け 「なつかしさはどんな場面か。」 「それはどんな色か」 「透明度を変えてみてはどうか。」 ・テーマに近づけるために期間巡視しながらアドバイスをする。 評価２ （主体的に学習に取り組む態度） イメージした情景を表現するために試行錯誤しながら、主体的に活動に取り組もうとしている。
	8　数名の作品の発表　７分 発表する際は、表現した情景を文章化したものを読む。（前時に準備） 完成作品を見せる ↓ 線画だけのものを見せる 順番に下のレイヤーを重ねたもの順番に写す	他者の作品を見ながら、主題を表現するために、どんな色が重なっているのかを考える。 生徒のタブレットからミラーリングして写す。	行動観察　発言内容 〇大型スクリーンにデジタル作品を写す。もう一つのスクリーンに主題を文章化したものを写す。

まとめ	9　まとめ 線画にしたレイヤーの下に、色のレイヤーを重層的に重ねることによって、情景や作者の思いなど表現することができた。		
	１０　授業の振り返り ・制作した作品についての説明 （各レイヤーの色について） ・工夫した点の説明 ・授業を通して感じたことや考えが深まったことについて説明をする。	振り返りはロイロノートでカードを配り入力次第、ロイロノートで回収する。	題材の目標が達成されたかを確認する。